



創立 120 周年記念行事大成功に！



秋が深まり、校庭や近くの公園では赤や黄色に色づいた木々が目立つようになりました。年間で最も長い2学期ですが、今年も残すところあと1か月になりました。

令和4年も、新型コロナウイルスへの対応に追われ、先が見えない1年でした。それでも、昨年よりは、取るべき対策が明らかになり、行事や学習活動も広がり、順調とは言えませんが、色々な行事を何とかこなすことが出来ていることを本当にうれしく思います。これも、日頃から子どもたちの体調管理に気を付けてくださっている保護者の皆様、また子どもたちを支えてくださっている地域の皆様のおかげであると感謝しております。

さて、12月3日(土)には全児童による創立120周年記念行事「わくわく集会」を、開催します。この集会は、各学年の取り組みを動画で撮影し、学級ごとに視聴します。児童会が中心となってどの学年も準備を進めています。また、10月運動会終了後より、この記念行事に向けて全校ダンスにも取り組んできました。県庁ドローンクラブの皆様の力を借りて、この出来上がったダンスをドローンで撮影していただきました。当日、披露したいと思います。お楽しみにしておいてください。それから、創立100周年に続いて、タイムカプセルを埋設しました。開封は、30年後の創立150周年時となります。みんなどんな大人になっているのでしょうか？楽しみですね。これからも120年という歴史と保護者・地域の思いで積み上げてきた学びの場である東山東小学校を大切にしていきたいと考えています。



育友会より寄贈



育友会より、創立120周年記念品として、体育館にひな壇を寄贈いただきました。本校のひな壇は、木製で古くまた重く、出し入れが大変でした。今回、アルミ製の物を寄贈いただき、本当にありがとうございます。早速、今回の集会に活用させていただいています。皆様、ありがとうございました。

学校保健安全委員会

11月24日(木)に本校6年生児童と校医や薬剤師の先生方にご出席いただき、学校保健委員会を行いました。子どもたちの質問に一つ一つ丁寧に答えていただきました。また、薬剤師の先生は、薬について実験をしながらわかりやすくお話していただきました。





12月の行事予定

2日(金) 登校指導
 3日(土) 創立120周年記念集会
 (わくわく集会)
 うちどく
 5日(月) 開校記念日
 振替休業日
 6日(火) 森林体験事後授業
 スクールカウンセラー
 7日(水) 2年 研究授業
 2年生 14:20 ごろ下校
 2年生以外 13:20 ごろ下校

9日(金) 4年 社会見学
 12日(月) クラブ活動
 漢字博士試験(~16日)
 13日(火) そろばんボランティア教室 3年
 15日(木) 安全点検
 16日(金) 登校指導・そろばんボランティア教室 3年
 17日(土) 子どもセンター「ドッチボール」
 20日(火) スクールカウンセラー
 22日(木) 給食終了
 23日(金) 2学期終業式

☆新型コロナウイルス感染拡大防止のため、各行事が変更・中止になる可能性があります。ご了承ください。



12月3日(土) 創立120周年記念集会(わくわく集会)

1・3・5年 9:40 ~ 10:30 ごろ(1・3・5年の保護者様をご入場いただけます。) } 入れ替え制
 2・4・6年 10:40 ~ 11:30 ごろ(2・4・6年の保護者様をご入場いただけます。)
 (お子さんのいらっしゃる時間帯のみの参観となります。ご登録のない学年の時間は参観できません。)

- ・来校前に必ず検温してください。ご本人、同居のご家族に発熱や風邪様症状等のある方は、来校をお控えください。また、コロナ感染症で感染すると重症化が高いと思われる方は、来校を控えることをお勧めします。
- ・参加される皆様は、マスクの着用・手指消毒にご協力をお願いします。
- ・スリッパ(上履き)は各自ご持参ください。
- ・単車、自転車は、東門を入り体育館北側へ駐輪してください。←前回のお手紙と変更しています。
- ・通行の迷惑になりますので、学校付近の駐車はご遠慮ください
- ・感染症予防対策として、体育館の窓を常時開けます。防寒対策をしてご覧下さい。

感染防止にご協力ください!

登校前、本人および同居家族に、

発熱、咳、咽頭痛、息苦しさ(呼吸困難)、強いだるさ(倦怠感)、頭痛、下痢、嗅覚・味覚異常などの風邪様症状がある場合は、登校を控え、医療機関を受診または受診相談窓口にご相談してください。

暖かい日が待ち遠しい季節がやってきました。11月から12月の暖かい日を「小春日和」といいますが、外国語でも「小春日和」を表す言葉があります。アメリカでは「インディアンサマー」、イギリスでは「聖マーティン(マルティン)の夏」「聖ルカの夏」、ドイツでは「老婦人の夏」トルコは「パストウルマ(塩漬けの干し肉)の夏」。春ではなく夏。日本には、朝晩は肌寒いけれど日中が次第に暖くなる、穏やかな季節「春」があります。日本ではこの温度差を長い期間感じられることができたので春の印象が強くなり、今の季節の暖かさを夏ではなく春と表現したようです。

吉田兼好は「徒然草」で「小春の天気」と書いていることから、このころすでに「小春」という言葉が使われていたことがわかります。でもこの暖かさを、春ではなく夏のようだ、兼好が感じて「小夏」と書いていたら、「小夏日和」になっていたかもしれません。

